

## 石狩沿岸地域の鳥たち

樋口孝城(石狩鳥類研究会)

石狩沿岸地域一帯を野鳥の飛来・生息状況から見た場合、環境は①海岸線の砂浜域、②石狩湾新港の防波堤や埠頭で囲まれた港内域、③はまなすの丘公園、および砂浜域の陸側後背部の原野・草原一帯の草原域、④石狩浜沖合一帯の沖合域、⑤石狩川河口から河口橋あたりまでの石狩川域に大別される(図1)。それぞれの域の概要を以下に記すとともに、各域の野鳥の記録状況および季節性を表1(4-5頁)に示す。ここ10年ほどの間、毎年あるいはほぼ毎年記録があるものには◎、5年間前後のものには○、1年あるいは2年程度のものには△が付けられているが、綿密な観察・調査によるものではないので、だいたいの飛来・生息傾向と考えられたい。



図1 石狩沿岸地域

### 砂浜域

石狩川河口から石狩湾新港東端まで約7.5kmの砂浜(石狩浜)である。主な野鳥はシギ・チドリ類とカモメ類である。シギ・チドリ類のほとんどは春と秋の渡り時期に海岸線に沿って移動する旅鳥で、石狩浜は採餌場、休息場として利用される渡り中継地となっている。

図2に示すように、春の渡り時期におけるシギ・チドリ類の石狩浜の通過は、早いものでは3月下旬から始まり、6月上旬まで続く。最盛期は4月下旬から5月上旬にかけてである。この時期の渡りは南方の越冬地から北方の繁殖地に向かう移動であり、当然のことながら渡る鳥たちは繁殖能力を身に付けた成鳥である。時期区分上からは秋の渡りと言うが、実際には夏の盛りとなる7月下旬から、北から南へと移動する鳥たちが石狩浜を通過し始める。秋の渡りの前半部である8月下旬までに見られるも

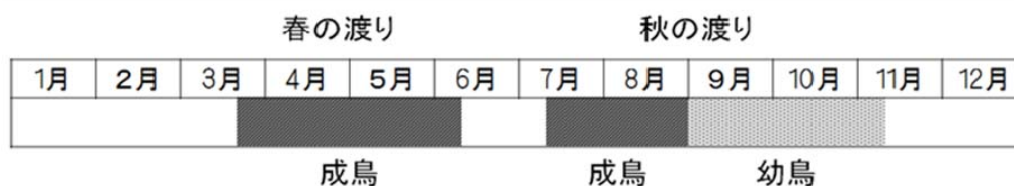


図2 石狩浜におけるシギ・チドリ類の飛来時期



## 草原域

海浜植物保護地域としてのはまなすの丘公園とその周辺、および石狩海水浴場付近から石狩湾新港方面に続く石狩砂丘地域である。飛来・生息する鳥のほとんどが草原性の小型夏鳥である。初冬からは上空を飛ぶオジロワシとオオワシが見られることがよくあるが、チョウゲンボウ、コチョウゲンボウといった小型のハヤブサ類が希に目撃されることもある。まだ雪に覆われていない草原地面上にいるネズミなどを狙っているのだろう。ノスリ、ケアシノスリなどが見られるのもこの時期である。

冬、砂丘草原は雪で覆われ、はまなすの丘公園周辺道路は除雪されないため、車での通行はできなくなる。徒歩あるいは歩くスキーなどでの観察もかなり困難であるが、ユキホオジロの群れが観察されたこともある。風で雪が飛ばされて露出した地面にあるイネ科の種子をついばんでいるようである。



ケアシノスリ

## 石狩川域

カモ類ではその生息がほぼ海域に限られるシノリガモ、クロガモ、ビロードキンクロを除いて、石狩管内で記録のあるものがほぼすべて見られ、河口橋より上流側での生息状況とだいたい同様である。

シギ・チドリ類については近年あまり記録されなくなってきている。数年前までは例えば通称「八幡干潟」(石狩市若生町)のような川岸干潟があり、オグロシギやアオアシシギのように石狩浜ではあまり記録されない種も見られたが、川岸形状の変化などにより、シギ・チドリ類の採餌・休息に適した場所がほとんどなくなってきている。春秋の渡り時期には多くのシギ・チドリ類が石狩川に沿って移動していると推測されるが、河口域付近では降りずに通過してしまうのかもしれない。

サギ類はほとんどがアオサギであるが、ダイサギがやや増加傾向にある。コサギも記録があるが稀である。また、カモメ類は砂浜域および港内域と比べて種類のには同じであるが、数的には少ない。

全体的に見て石狩沿岸地域一帯は、いわば「普通」の環境である。特殊な環境があり、特殊な鳥が生息・飛来するわけではない。しかしながら、この「普通」さが実は最も重要であると考えている。

表1 石狩沿岸地域の野鳥リスト

科名	種名	砂浜	港内	沖合	石狩川	草原	上空	季節
アビ科	アビ		△	○				冬
	オオハム		△	○				冬
	シロエリオオハム			△				冬
	ハシジロアビ		△	△				冬
カイツブリ科	ハジロカイツブリ		◎	○				冬
	ミミカイツブリ		◎	○				冬
	アカエリカイツブリ		△					冬
	カンムリカイツブリ		◎	△				冬
ウ科	カワウ				◎			夏
	ウミウ		◎	◎	◎			留
	ヒメウ		◎	◎				冬
サギ科	ダイサギ	△			○			夏
	コサギ				○			夏
	アオサギ	◎			◎			夏
カモ科	オオハクチョウ				○			旅
	コハクチョウ				○			旅
	マガモ		△	△	◎			留
	カルガモ				◎			留
	コガモ				◎			旅
	ヨシガモ				○			旅
	ヒドリガモ		△	△	◎			旅
	オナガガモ				◎			旅
	ハシビロガモ				○			旅
	ホシハジロ				○			旅
	キンクロハジロ		◎		◎			冬
	スズガモ		◎	○	◎			冬
	クロガモ		◎	◎				冬
	ビロードキンクロ		◎	◎				冬
	シノリガモ		◎	○				冬
	コオリガモ		△					冬
	ホオジロガモ		◎	◎	◎			冬
	ミコアイサ				◎			冬
	ウミアイサ		◎	○	○			冬
	カワアイサ				◎			冬
タカ科	ミサゴ			○	○		◎	夏
	トビ	◎	◎		◎	◎	◎	留
	オジロワシ	○	○		○		◎	冬
	オオワシ	○	○		○		◎	冬
	ハイタカ						○	留
	ケアシノスリ					△	△	冬
	ノスリ					◎	◎	夏
	ハイイロチュウヒ					△	△	冬
ハヤブサ科	ハヤブサ	○	△		○	○	○	留
	コチョウゲンボウ					△	△	冬
	チョウゲンボウ					△	△	冬
ミヤコドリ科	ミヤコドリ	△						旅
チドリ科	ハジロコチドリ	△						旅
	コチドリ	○			○			夏
	シロチドリ	◎			○			旅
	メダイチドリ	◎			○			旅
	ムナグロ	◎			○			旅
	ダイゼン	◎			◎			旅
	キョウジョシギ	◎						旅
シギ科	ヨーロッパトウネン	△						旅
	トウネン	◎			◎			旅
	ヒバリシギ				○			旅
	ヒメウスラシギ	△						旅
	ハマシギ	◎			◎			旅

科名	種名	砂浜	港内	沖合	石狩川	草原	上空	季節
シギ科(続き)	サルハマシギ	○						旅
	コオバシギ	○						旅
	オバシギ	○						旅
	ミユビシギ	◎			○			旅
	ヘラシギ	△						旅
	エリマキシギ				○			旅
	キリアイ				○			旅
	ツルシギ				○			旅
	アカアシシギ				○			旅
	アオアシシギ	○			○			旅
	タカブシギ				○			旅
	キアシシギ	◎			○			旅
	イノシギ	○			◎			夏
	ソリハシシギ	◎			◎			旅
	オグロシギ	○			○			旅
	オオソリハシシギ	◎			○			旅
	ホウロクシギ	◎			○			旅
	チュウシヤクシギ	◎			○			旅
ヒレアシシギ科	アカエリヒレアシシギ	○			○			旅
カモメ科	ユリカモメ	◎	○	◎	◎			旅
	セグロカモメ	◎	◎	◎	○			冬
	オオセグロカモメ	◎	◎	◎	◎			留
	ワシカモメ		○					冬
	シロカモメ	◎	◎	◎	◎			冬
	カモメ	◎	◎	◎	◎			冬
	ウミネコ	◎	◎	◎	◎			夏
	ミツユビカモメ	△		△				旅
	アジサシ	○		◎	○			旅
	コアジサシ			△				旅
ウミスズメ科	ウミガラス		△	○				冬
	ハシブトウミガラス		△	△				冬
	ケイマフリ		○	△				冬
	マダラウミスズメ		△	△				冬
	ウミスズメ		△	○				冬
ハト科	キジバト				◎			夏
フクロウ科	コミズク					△		冬
カワセミ科	カワセミ				○			夏
ヒバリ科	ヒバリ				◎	◎		夏
ツバメ科	ショウドウツバメ					◎		夏
	ツバメ					○		夏
セキレイ科	ハクセキレイ	○			◎	◎		夏
モズ科	モズ				◎	◎		夏
	アカモズ					△		夏
ツグミ科	ノゴマ				◎	◎		夏
	ノビタキ				◎	◎		夏
ウグイス科	コヨシキリ				◎	◎		夏
ホオジロ科	ホオアカ				◎	◎		夏
	アオジ				◎	◎		夏
	オオジュリン				◎	◎		夏
	ユキホオジロ					△		冬
アトリ科	カワラヒワ				◎	◎		夏
ハタオリドリ科	ニューナイスズメ				◎	○		夏
	スズメ				○	○		留
ムクドリ科	コムクドリ					◎		夏
	ムクドリ				○	◎		留
カラス科	ハシボソガラス	◎	◎		◎	◎		留
	ハシブトガラス	◎	◎		◎	◎		留

記録がある鳥種: アマサギ, クロツラヘラサギ, コクガン, マガン, マナヅル, シベリアオオハシシギ, コキアシシギ, カラフトアオアシシギ, ダイシヤクシギ, トウゾクカモメ, ズグロカモメなど(地域と関連性の低い一部の鳥は省略)